



平成29年度学校評価

甲府市立北西中学校

〈本年度の重点項目〉

- ① 学習活動の充実：じっくりと（学力向上と表現力を目指して）
- ② 心の教育の充実：はつらつと（やる気と他者を思いやる心の育み）
- ③ 生き方の支援：すがすがしく（特別活動と総合的な学習の時間の充実）

—学習指導—

- ① 日常的な言語活動等，表現力を培う授業実践や工夫した教育活動ができていたか
- ② 学力とスマホ使用時間の関連を意識し，家庭と連携した家庭学習の定着を図ることができたか
- ③ 何を生徒に読ませるか等考慮した「朝読書」や「読み聞かせ」など，思考力，表現力を養う読書活動を仕組んでいたか

—特別活動—

- ① 北西中の良き伝統を継承する中で，さらなる生徒会活動の推進と活性化が図られたか（合唱 あいさつ 応援）
- ② 「合唱タイム」の取組を通して学級・学年・全校の一体感や感動を創りあげることができたか（オープンスクール・あいさつ運動など）

—各種教育—

- ① 各教科をはじめとする各種教育活動を通して「思いやる心を育む」「いのちの教育」を実践することができたか
- ② 小中連携と地域との連携を密にして教育活動を推進することができたか

1. 学習活動の充実

～学校及び家庭での学習指導について～

1. 自己評価から

- ① 日常的な言語活動等，表現力を培う授業実践や工夫した教育活動ができていたか
今年 できている（14%），まあまあできている（71%）を合わせて→ 85%
昨年 できている（48%），まあまあできている（52%）を合わせて→100%
- ② 学力とスマホ使用時間の関連を意識し，家庭と連携した家庭学習の定着を図ることができたか
今年 できている（5%），まあまあできている（45%）を合わせて→ 50%
昨年 できている（29%），まあまあできている（43%）を合わせて→ 71%
- ③ 本と情報機器の複合的活用など，教科，道徳，総合等で図書館を積極的に活用したか
今年 活用した（5%），まあまあ活用した（45%）を合わせて→ 50%
昨年 活用した（38%），まあまあ活用した（33%）を合わせて→ 71%
- ④ 何を生徒に読ませるか等考慮した「朝読書」や「読み聞かせ」など，思考力，表現力を養う読書活動を仕組んでいたか
今年仕組んでいた（15%），まあまあ仕組んでいた（70%）を合わせて→85%
昨年仕組んでいた（38%），まあまあ仕組んでいた（48%）を合わせて→86%

【全体に関わり】

昨年度と比較して学習に対する教職員の自己評価は全体的に低めである。教職員が大きく入れ替わり，若い職員が多くなったことにより，昨年度以上に厳しい目で自己評価していると考えられる。

また，「甲斐善八か条」に向けての取り組みなど，県全体が「家庭学習」に力点を入れているなど，取り組まなければならないことが変遷してきたことも原因の1つであると考えられる。

【③に関わり】

ICTを利用した学習活動は、今後社会に羽ばたく生徒たちにとって非常に重要な役割を持つことになる。今後も若い職員が増加することを武器に来年度はこの部分に力を入れていく必要があると考える。

2. 校内研究アンケートから

①魅力ある授業づくりについて

- 自分自身を振りかえる良い機会となったと思います。
- 同じ資料を用いて授業を実践してみて、非常に有効だった。
- どの研究授業も、「自ら学ぶ意欲を持った生徒の育成」という研究テーマのとおり思考する過程を重視していて生徒自身が大変意欲的に取り組んでいる様子が見られた。

- 小グループを活用する中で、生徒同士の意見の交流など図ることができた。
- 道徳の研究授業では、発問の工夫や生徒から出た意見に対しての切り換えをどう行うか実際に授業を見て学ぶことができてよかった。
- 研究授業を見て、発問の難しさや評価の難しさを感じることもできた。
- 先生方が研究テーマを意識しながら授業を提供してくださり研究への意欲付けになった。＝「いい授業をしたい」という思いにつながった。
- 年間を通じて生徒の話し合い活動を中心にした授業づくりを意識することができた。特に、研究授業については、新しい試みができ、手ごたえを得られた。
- ▲教科化に向け、評価についてももう少し具体的に、学校としての方針を考えられたらよかった。
- ▲魅力ある授業作りに取り組んでいた。しかし相互に授業観察ができなかったことが課題である。
- ▲小グループを中心に、課題について意見を再構成できるような場面をなるべく多く設定したが、意見交流、話し合うに値する課題をなかなか提供できなかった。意見を「練り上げる」という点が十分ではなかったように思う。また授業構成全体も興味・関心を高められる導入、展開を考える必要があった。
- ▲生徒の話し合いの様子や変化については、もう少しポイントをしばって観察する必要があるとも感じた。

②望ましい集団づくりについて

- 表面上は分からない生徒の様子が分かった。
- 調査結果を指導に繋げることによって、クラスの雰囲気改善された。
- QUの仕組み、分析方法について理解が深まった。
- QUの分析から個々の生徒や集団へのアプローチなど参考になった。
- 表面上は分からない生徒の気持ちや様子が分かり、その後の指導に生かすことができた。
- 特に学級経営の部分では指導に活かすことができたと思う。
- 自分が持っている印象とは異なる生徒の様子を知ることができた。
- ▲QUの分析の困難さや生かしきれているかの不安、調査結果を知るときの心理的ストレスがある
- ▲授業の中ではQUの結果をまだ生かせていない。人間関係の聞き取りの中で座席を工夫できればよいと思う。
- ▲自分の学級については、QUを意識してはいたが、他学級や他学年については、なかなか授業づくりに生かすことができなかった。実際に学級で見ている状況とのズレもあるので、(班替えの際)個人的にとったアンケートと合わせて分析した。
- ▲学級の集団づくりに反映されている点が弱いように感じる。
- ▲ややマンネリ化してきたように感じました。

・ 校内研究に対する評価のポイントは、昨年度と同程度かやや下回るといった結果になっているが、特記事項を見ると、肯定的な意見も多く見られる。

- ① 授業づくりについては、組織の評価ポイントと自分自身の評価ポイントの差が他の項目に比べて大きくなっている。特記事項を見てみると、研究授業から学ぶことができたという充実感が感じられる一方で、それを自分自身の実践に活かすことができなかったという意見が見られた。この点が、組織と自分自身の評価ポイントの差の原因になっているのではないだろうか。また、道徳の研究をより深めたいという意見もあり、来年度の研究に活かしていきたい。
- ② QUを活かした集団づくりについては、評価の平均ポイントが自分自身・組織共に全項目中最も低くなっている。「研究を通してQUに対する理解が深まり、分析後の指導に活かすことができた」「自分の印象と異なる様子を知ることができた」という意見がある一方で、QUを授業づくりにつなげるところまで至らなかったという意見も見られた。QUをより活用していくには、その意義や分析の方法についてさらに研修を進める必要がある。

3. 保護者のアンケートから

- ① お子さんは、学校生活を楽しく送っていると思いますか
今年 そう思う (62%)、まあまあそう思う (31%) を合わせて→ 94%
昨年 そう思う (73%)、まあまあそう思う (21%) を合わせて→ 94%
- ② お子さんは、授業の内容を良く理解していると思いますか
今年 そう思う (21%)、まあまあそう思う (54%) を合わせて→ 74%
昨年 そう思う (17%)、まあまあそう思う (47%) を合わせて→ 63%
- ③ 北西中学校では、授業中に小グループ活動(2～4人)を行っていることを知っていますか。
今年 よく知っている (9%) だいたい知っている (36%) を合わせて→45%
一昨年 よく知っている (7%) だいたい知っている (30%) を合わせて→36%
- ④ お子さんは図書館の本を借りたり、図書館をよく利用したりしていると思いますか。
今年 そう思う (13%)、まあまあそう思う (16%) を合わせて→29%
昨年 そう思う (11%)、まあまあそう思う (20%) を合わせて→30%
- ⑤ 家庭で、お子さんは本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)をよく読んでいますか。
今年 そう思う (20%)、まあまあそう思う (18%) を合わせて →38%
昨年 そう思う (14%)、まあまあそう思う (24%) を合わせて →38%
- ⑥ 学習塾や、家庭教師について勉強する時間を含め、平日、学校以外で何時間くらい勉強していますか。
今年 1時間未満 (34%) 1時間以上 (40%) 2時間以上 (19%)
3時間以上 (7%)
昨年 1時間未満 (44%) 1時間以上 (37%) 2時間以上 (13%)
3時間以上 (7%)

【②に関わり】

昨年から11ポイントの上昇。校内研等での実践（思考力や表現力の育成を重視した学習など）が実を結びつつある。

【③に関わり】

昨年から8ポイントの上昇していることについては、授業参観の参加者も多く（300名中207名）、保護者の意識が高い。子供たちも学校の授業の様子をよく話している。

【④⑤に関わり】

家庭学習の時間が伸びている反面、読書をする時間は昨年度から引き続きの課題となっている。

【②⑥に関わり】

家庭学習は山梨県教育委員会からの提言にもあるとおり、山梨県の喫緊の課題である。アンケートを見る限りでは、今年度各学年で取り組んだ成果が出ているとあってよい。授業内容もよくわかるようになってきているのが、家庭学習の成果か教員の授業への取り組みの成果か判断していく必要がある。

2. 心の教育の充実

～ 生徒に対する学校の指導と家庭での子供の教育 ～

1. 自己評価から

① 不登校対策に進展が見られたか。

今年 見られた（25%）、まあまあみられた（60%）を合わせて→ 85%

昨年 見られた（50%）、まあまあみられた（45%）を合わせて→ 95%

② いじめ問題への対応（発見・指導・連携等）は見られたか。

今年 見られた（35%）、まあまあみられた（65%）を合わせて→ 100%

昨年 見られた（55%）、まあまあみられた（45%）を合わせて→ 100%

③ 思いやる心を育む「いのちの教育」を実践することができたか

今年 できている（12%）、まあまあできている（47%）を合わせて→ 59%

昨年 できている（68%）、まあまあできている（32%）を合わせて→100%

④ 気持ちのよいあいさつや返事など、生徒への適切な指導ができたか

今年 できている（10%）、まあまあできている（75%）を合わせて→ 85%

昨年 できている（41%）、まあまあできている（41%）を合わせて→82%

【①に関わり】

昨年度と比較して生活指導に対する教職員の自己評価は全体的に低めである。これも、教職員が大きく入れ替わり、若い職員が多くなったことにより、昨年度以上に厳しい目で自己評価していると考えられる。しかし、関係機関との連携を図り、複数の大人が関わりを持ちながら不登校生徒個々への対策を行ってきたため、登校できるようになった成果も現れた。

【②に関わり】

いじめをなくすためには積極的に認知し、それを改善していくことが大切であるという文部科学省の方針が、職員に定着してきていることを感じる。学年職員が小さな動きを見逃さず、いじめの早期発見と素早い対応を心掛けている。

2. 保護者のアンケートから

- ① お子さんの仲の良い友達を知っていますか。
今年 よく知っている (31%), だいたい知っている (61%) を合わせて→92% 昨年 よく知っている (33%), だいたい知っている (58%) を合わせて→91%
- ② 家庭で、お子さんと学校のことや友人、勉強のことなどについて、よく話をしていると思いますか。
今年 そう思う (37%), ややそう思う (47%) を合わせて→84%
昨年 そう思う (37%), ややそう思う (42%) を合わせて→79%
- ④ 家庭では、お子さんのしつけに力をいれていると思いますか。
今年 そう思う (23%), ややそう思う (55%) を合わせて→ 79%
昨年 そう思う (23%), ややそう思う (59%) を合わせて→ 82%
- ⑤ お子さんは毎日決まった時刻に寝て、決まった時間に起きるになど、きちんとした生活習慣が身についていると思いますか。
今年 そう思う (31%), ややそう思う (47%) を合わせて→ 78%
昨年 そう思う (30%), ややそう思う (42%) を合わせて→ 72%
- ⑥ 県PTA協議会、市PTA連合会の提案を受け、PTA総会で家庭での携帯電話、スマホ、インターネット等を利用する際のルールについて話し合うことをお願いしましたが、必要であったと思いますか。
今年 そう思う (53%), まあまあそう思う (36%) を合わせて→ 89%
昨年 そう思う (51%), まあまあそう思う (41%) を合わせて→ 92%

【②③④に関わり】

子どもとはよく話をしていて、子どもたちが毎日規則正しい生活をしていることは、家庭だけでなく地域の力となっていると感じる。その反面、「しつけをする」という意識が保護者に薄いのは、「叱りながら子どもに伝えていくことをしない家庭」が増えているからだと考える。その経験がない子どもたちは、学校や社会でその場面に初めて出くわすことになる。

【⑤に関わり】

ラインやツイッターなど子供たちを取り巻くSNSのトラブルについて、子供も保護者もより身近で感じるようになってきているはずだが、ここポイントが減少していることは大きな課題である。

本校では、毎年1年生を対象に、SNSのトラブルについて山梨県警の少年対策官に依頼し講習をお願いしているが、今年度は2月末に保護者・地域向けの講演会を予定している。

3. 生き方の支援

～本校の特別活動に対する意見から～

1. 自己評価から

- ① 学級活動は充実しており、所期の目的の達成と教育的効果が現れていたか。
今年 現れていた (11%), まあまあ現れていた (79%) を合わせて→ 89%
昨年 現れていた (43%), まあまあ現れていた (52%) を合わせて→ 95%
- ② 北西中学校の良き伝統を継承する中で、さらなる生徒会活動の推進と活性化が図られたか。
今年 図られた (32%), まあ図られた (55%) を合わせて→ 87%
昨年 図られた (52%), まあ図られた (48%) を合わせて→ 100%
- ③ 「合唱タイム」の取組を通して学級・学年・全校の一体感や感動を創り上げることができたか。
今年 できた (14%), まあまあできた (67%) を合わせて→ 81%
昨年 できた (52%), まあまあできた (43%) を合わせて→ 95%

【①②③に関わり】

昨年度と比較して特別活動に対する教職員の自己評価は全体的に低めである。これも、教職員が大きく入れ替わり、若い職員が多くなったことにより、昨年度以上に厳しい目で自己評価していると考えられる。

【③に関わり】

「合唱が北西中の伝統である」ことは、保護者も生徒も卒業生も意識しているところである。今後もこの伝統を引き継いでいくための意識を高いところに持つ必要がある。

2. 保護者のアンケートから

- ① 学年・学級だよりや進路だより、学校開放 (学園祭・講演会・親子道徳) は、お子さんの様子を知る良い機会となっていますか。
今年 そう思う (51%), ややそう思う (43%) を合わせて→94%
昨年 そう思う (47%), ややそう思う (46%) を合わせて→93%
- ② 合唱活動を通して、仲間とのふれあいや、学級・学年・全校の一体感が生まれていると思いますか。
今年 そう思う (44%), ややそう思う (47%) を合わせて→91%
昨年 そう思う (55%), ややそう思う (40%) を合わせて→94%

☆保護者アンケート「北西中のよいところ、誇れるところ」の自由記述では、次のような傾向が見られた。

- ① 合唱の取り組みと、合唱の質の高さ 全校43名
(1年：14名，2年：16名，3年：13名)
- ② 挨拶の取り組みと、挨拶の習慣化 全校21名
(1年： 8名，2年： 7名，3年： 6名)
- ③ 子どもたちの仲の良さ、職員との親密さ等学校の良い雰囲気 全校41名
(1年：11名，2年：15名，3年：15名)
- ④ 教師の姿勢や親身な指導 全校39名
(1年：13名，2年： 9名，3年：17名)
- ⑤ その他、環境の良さなど 全校 5名

(保護者からの声)

- 先生方が熱心で、子供達が嬉しそうに登校する姿を見ると先生達に感謝しています。
子供目線で真剣に向き合ってくれる姿、子供の話を聴くと、先生が真剣に話を聴いてくれる。相談に乗ってくれると良く話すので感謝の気持ちでいっぱいです。(2年)
- 最初に感じたことは、先生と生徒達の距離感が良い意味で近いと言うことです。ざっくばらんに生徒に声をかけている先生方に対して、生徒もとても気さくに接している姿をよく見かけ、学校全体の雰囲気の良さが伝わってきます。北西中を良い学校にしていきたいと考えていらっしゃるのが保護者にも伝わってきます。北西中に通わせて良かったと心から思っております。(1年)

【北西中の誇れるところの記述に関わり】

合唱活動への評価が最も高かったが、「北西中校歌の4部合唱を他校に聞かせたい」という声もある反面「あの校歌では物足りない。取り戻してほしい」という声も入っている。北西中の強みを生かしていくためにも、気を引き締めて合唱活動に取り組んでいく必要がある。

また、保護者からの声にあるように、多くの保護者から温かい励ましの言葉や高い評価を受けていると感じた。裏返せば、高い期待を寄せられているということであるとらえている。